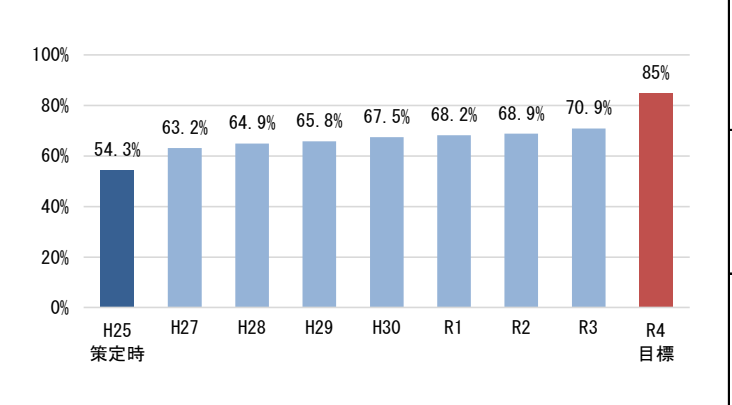
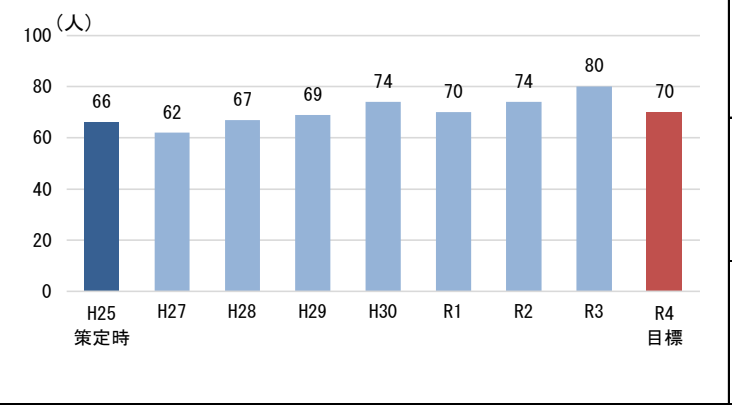
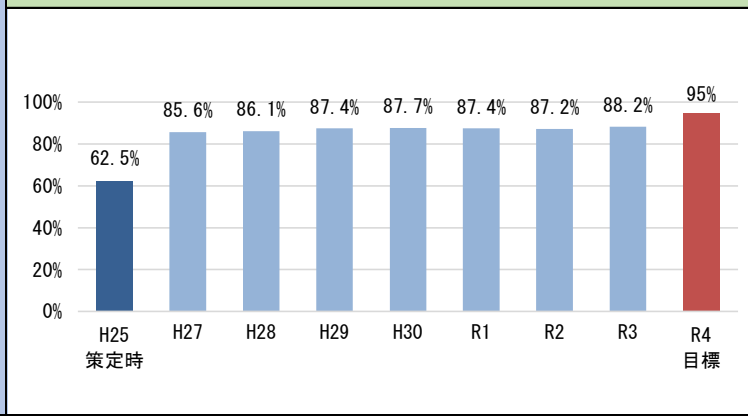
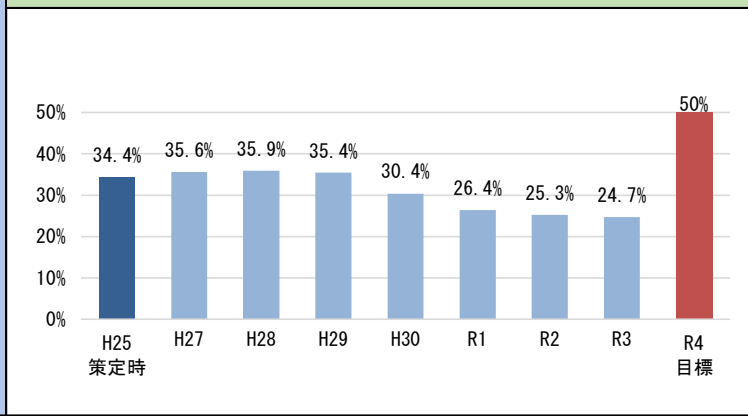
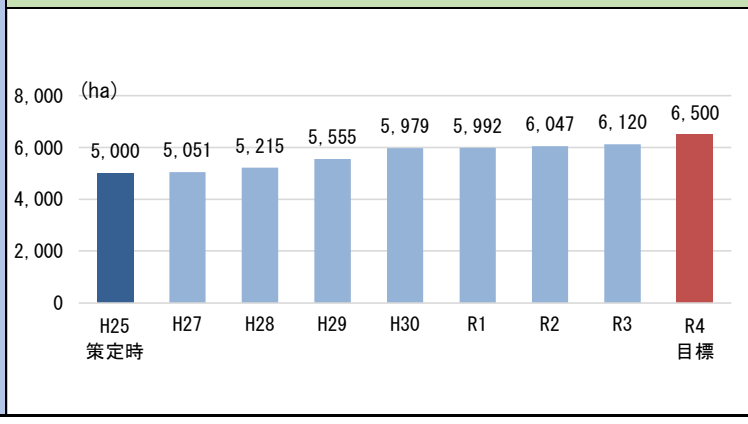


基本方針 サブテーマ 施策	取り組み	目標指標に対する達成状況																																								
基本方針1、競争力のある食と花の確立（生産・販売に関する方針）																																										
<p>(1)売れる米づくり</p> <p>施策1. 販売力のある主食用米づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ①安心・安全な米づくり ②高品質で競争力のあるコシヒカリづくり ③需要に応じた品種による主食用米づくり <p>施策2. 水田フル活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ①非主食用米の生産推進 ②多収穫米の生産推進 ③新形質米の生産推進 ④大豆等の土地利用型複合経営の推進 <p>施策3. 低コストな米づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ①低コスト・省力技術の普及 ②ICT（情報通信技術）の導入推進 		<p>①水稲作付面積 【水田フル活用の推進】</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H25</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr> <tr><th>面積 (ha)</th><td>24,500</td><td>24,932</td><td>24,967</td><td>24,884</td><td>25,011</td><td>25,076</td><td>25,125</td><td>25,154</td><td>24,500</td></tr> </table> <p>主な事業：元気な農業応援事業</p> <p>目標達成状況の分析：主食用米だけでなく、加工用米などの地域内の実需者との結びつきの支援など非主食用米の生産を推進することで、水稲作付面積の維持拡大を図った。</p> <p>課題：水田における不作付を防ぐ観点から水稲作付面積の維持を目標として設定しているが、加工用米などの非主食用米の作付だけでなく、米からの園芸転換を推進しており、施策と本目標の方向性が目標が合わなくなっている。</p>	年度	H25	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	面積 (ha)	24,500	24,932	24,967	24,884	25,011	25,076	25,125	25,154	24,500																				
年度	H25	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4																																	
面積 (ha)	24,500	24,932	24,967	24,884	25,011	25,076	25,125	25,154	24,500																																	
<p>(2)消費者の期待に応える食と花の確立</p> <p>施策4. 品質の確保された農畜産物の生産</p> <ul style="list-style-type: none"> ①安心・安全な農畜産物の生産 ②栽培技術の向上による品質確保 ③ICT（情報通信技術）の導入による品質確保 <p>施策5. 安定した生産量の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ①安定生産技術の確立 ②作業ピーク時の労働力確保 <p>施策6. 新たな品目・品種への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ①新たな産地形成 ②複合経営の推進 ③花き・花木産地の活性化 		<p>②うるち米1等米比率 【米の高品質化】</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H25</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr> <tr><th>比率 (%)</th><td>78.1%</td><td>81.1%</td><td>86.7%</td><td>85.8%</td><td>78.8%</td><td>37.2%</td><td>79.5%</td><td>83.3%</td><td>90%</td></tr> </table> <p>主な事業：元気な農業応援事業（スマート農業取組支援） 環境と人にやさしい農業支援事業</p> <p>目標達成状況の分析：スマート農業の導入や、籾殻や堆肥などによる土づくりを推進したものの、天候による影響が大きく目標達成に至らない年度もあった。</p> <p>課題：強風や気温など、天候による外的要因の影響を大きく受けてしまっている。</p>	年度	H25	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	比率 (%)	78.1%	81.1%	86.7%	85.8%	78.8%	37.2%	79.5%	83.3%	90%																				
年度	H25	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4																																	
比率 (%)	78.1%	81.1%	86.7%	85.8%	78.8%	37.2%	79.5%	83.3%	90%																																	
<p>(3)食料基地からの発信</p> <p>施策7. 地産地消の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ①直売所の利用促進等、市内への販路拡大 ②農畜産物の安定供給 ③消費者のニーズを把握する仕組みの構築 <p>施策8. ブランド化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ①品目ごとの特性を踏まえたブランド戦略 ②食と花の都のブランド化 ③農畜産物の高付加価値化 <p>施策9. 国内の販路拡大・輸出の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ①品目ごとの特性を踏まえた販売戦略 ②農畜産物輸出の促進 		<p>③新たな園芸産地の形成 【新たな産地形成の推進】</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H25</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr> <tr><th>形成数 (累計)</th><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td><td>7</td><td>9</td><td>14</td><td>12</td></tr> </table> <p>※H30見直し時に追加</p> <p>主な事業：元気な農業応援事業（新たな産地づくり支援）</p> <p>目標達成状況の分析：県や農協など農業団体と一体となり、産地拡大に向けた取組みを進め、大規模産地の形成に取組むことで目標を上回る形成数を達成した。</p> <p>課題：今後さらに園芸産地の形成を進めていくためには、資金面だけでなく技術の伝承や労働力の確保など多面的な要因が課題となっている。</p>	年度	H25	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	形成数 (累計)	0	0	0	0	3	7	9	14	12																				
年度	H25	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4																																	
形成数 (累計)	0	0	0	0	3	7	9	14	12																																	
		<p>③学校給食における地場農産物（野菜・果物・きのこ）の利用割合（食材数ベース）【地産地消の推進】</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H25</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr> <tr><th>市内産 (3品目) (%)</th><td>25.2%</td><td>26.5%</td><td>26.8%</td><td>26.7%</td><td>25.9%</td><td>25.2%</td><td>23.3%</td><td>23.8%</td><td>30%</td></tr> <tr><th>県内産 (全品目) (%)</th><td>31.3%</td><td>31.9%</td><td>31.3%</td><td>31.0%</td><td>30.3%</td><td>31.2%</td><td>29.3%</td><td>30.7%</td><td>-</td></tr> <tr><th>県内産全国平均 (全品目) (%)</th><td>25.8%</td><td>26.9%</td><td>25.8%</td><td>26.4%</td><td>26.0%</td><td>26.0%</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> </table> <p>主な事業：給食への地場農産物供給事業</p> <p>目標達成状況の分析：R3の市内産割合は23.8%で、目標値である30%に近づけていない。一方、米や肉類などを含めた県産割合（全品目）では30.7%で、国の目標値（30%）を維持している。</p> <p>課題：国の算定方法が、R2年度より金額ベースに変更。R3年度実績（全品目）では、県産割合58.4%で全国平均56%を上回っているが、市内産24.7%を高めていく必要がある。</p>	年度	H25	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	市内産 (3品目) (%)	25.2%	26.5%	26.8%	26.7%	25.9%	25.2%	23.3%	23.8%	30%	県内産 (全品目) (%)	31.3%	31.9%	31.3%	31.0%	30.3%	31.2%	29.3%	30.7%	-	県内産全国平均 (全品目) (%)	25.8%	26.9%	25.8%	26.4%	26.0%	26.0%	-	-	-
年度	H25	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4																																	
市内産 (3品目) (%)	25.2%	26.5%	26.8%	26.7%	25.9%	25.2%	23.3%	23.8%	30%																																	
県内産 (全品目) (%)	31.3%	31.9%	31.3%	31.0%	30.3%	31.2%	29.3%	30.7%	-																																	
県内産全国平均 (全品目) (%)	25.8%	26.9%	25.8%	26.4%	26.0%	26.0%	-	-	-																																	

基本方針 サブテーマ 施策	取り組み	目標指標に対する達成状況																										
基本方針2、意欲ある多様な担い手の確保・育成（担い手に関する方針）																												
<p>施策10. 新規就農者・農業生産法人等の確保・育成</p> <p>①幅広い多様な人材・企業の受入れ促進</p> <p>②担い手に育つまでの支援体制の整備</p> <p>施策11. 農業経営の確立</p> <p>①農家の経営の安定化</p> <p>②農地集積・集約化の推進</p> <p>③経営の多角化の推進</p> <p>④他産業との連携の推進</p> <p>施策12. 農家の連携の強化</p> <p>①地域複合経営の取り組み促進</p> <p>②作業ピーク時の労働力確保・作業省力化の推進</p> <p>③農業水路等の維持に関する共同作業の促進</p> <p>施策13. 女性農業者への支援</p> <p>①女性の経営参画に向けた環境整備の推進</p> <p>②女性農業者の社会参画に向けた環境整備の推進</p>	未達成	<p style="background-color: #d9ead3; padding: 5px;">④認定農業者への農地集積率 【農地集積・集約化の推進】</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <table border="1" style="margin-left: 10px;"> <caption>④認定農業者への農地集積率</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>集積率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H25 策定時</td><td>54.3%</td></tr> <tr><td>H27</td><td>63.2%</td></tr> <tr><td>H28</td><td>64.9%</td></tr> <tr><td>H29</td><td>65.8%</td></tr> <tr><td>H30</td><td>67.5%</td></tr> <tr><td>R1</td><td>68.2%</td></tr> <tr><td>R2</td><td>68.9%</td></tr> <tr><td>R3</td><td>70.9%</td></tr> <tr><td>R4 目標</td><td>85%</td></tr> </tbody> </table> </div> <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 20%;">主な事業</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・人・農地プラン作成事業 ・農地中間管理事業 ・機構集積協力金事業 </td> </tr> <tr> <td>目標達成状況の分析</td> <td>認定農業者への農地集積は、きっかけとなる機構集積協力金事業の要件が厳しいことや、機運のあった地区での事業活用が一巡したことから、集積率が伸びず目標を下回っている。</td> </tr> <tr> <td>課題</td> <td>地域における話し合いの先導役となるリーダーの不在や、話し合いに参加しない土地持ち農家等の増などにより話し合いが低調な地域がある。</td> </tr> </table>	年度	集積率	H25 策定時	54.3%	H27	63.2%	H28	64.9%	H29	65.8%	H30	67.5%	R1	68.2%	R2	68.9%	R3	70.9%	R4 目標	85%	主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ・人・農地プラン作成事業 ・農地中間管理事業 ・機構集積協力金事業 	目標達成状況の分析	認定農業者への農地集積は、きっかけとなる機構集積協力金事業の要件が厳しいことや、機運のあった地区での事業活用が一巡したことから、集積率が伸びず目標を下回っている。	課題	地域における話し合いの先導役となるリーダーの不在や、話し合いに参加しない土地持ち農家等の増などにより話し合いが低調な地域がある。
	年度	集積率																										
	H25 策定時	54.3%																										
	H27	63.2%																										
H28	64.9%																											
H29	65.8%																											
H30	67.5%																											
R1	68.2%																											
R2	68.9%																											
R3	70.9%																											
R4 目標	85%																											
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ・人・農地プラン作成事業 ・農地中間管理事業 ・機構集積協力金事業 																											
目標達成状況の分析	認定農業者への農地集積は、きっかけとなる機構集積協力金事業の要件が厳しいことや、機運のあった地区での事業活用が一巡したことから、集積率が伸びず目標を下回っている。																											
課題	地域における話し合いの先導役となるリーダーの不在や、話し合いに参加しない土地持ち農家等の増などにより話し合いが低調な地域がある。																											
達成	<p style="background-color: #d9ead3; padding: 5px;">⑤新規就農者数（年間確保数） 【担い手の確保】</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <table border="1" style="margin-left: 10px;"> <caption>⑤新規就農者数（年間確保数）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>確保数（人）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H25 策定時</td><td>66</td></tr> <tr><td>H27</td><td>62</td></tr> <tr><td>H28</td><td>67</td></tr> <tr><td>H29</td><td>69</td></tr> <tr><td>H30</td><td>74</td></tr> <tr><td>R1</td><td>70</td></tr> <tr><td>R2</td><td>74</td></tr> <tr><td>R3</td><td>80</td></tr> <tr><td>R4 目標</td><td>70</td></tr> </tbody> </table> </div> <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 20%;">主な事業</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・農業次世代人材投資事業（経営開始型）※R4～経営開始資金 ・農の雇用事業 ※R4～雇用就農資金 ・新規就農者確保・育成促進事業 </td> </tr> <tr> <td>目標達成状況の分析</td> <td>現在の補助制度等を活用することで、目標の達成が継続できる。</td> </tr> <tr> <td>課題</td> <td>定着率向上のため、栽培技術・知識のみならず、経営に資する知識の習得や、農業者同士の横のつながりの構築が必要。</td> </tr> </table>	年度	確保数（人）	H25 策定時	66	H27	62	H28	67	H29	69	H30	74	R1	70	R2	74	R3	80	R4 目標	70	主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ・農業次世代人材投資事業（経営開始型）※R4～経営開始資金 ・農の雇用事業 ※R4～雇用就農資金 ・新規就農者確保・育成促進事業 	目標達成状況の分析	現在の補助制度等を活用することで、目標の達成が継続できる。	課題	定着率向上のため、栽培技術・知識のみならず、経営に資する知識の習得や、農業者同士の横のつながりの構築が必要。	
年度	確保数（人）																											
H25 策定時	66																											
H27	62																											
H28	67																											
H29	69																											
H30	74																											
R1	70																											
R2	74																											
R3	80																											
R4 目標	70																											
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ・農業次世代人材投資事業（経営開始型）※R4～経営開始資金 ・農の雇用事業 ※R4～雇用就農資金 ・新規就農者確保・育成促進事業 																											
目標達成状況の分析	現在の補助制度等を活用することで、目標の達成が継続できる。																											
課題	定着率向上のため、栽培技術・知識のみならず、経営に資する知識の習得や、農業者同士の横のつながりの構築が必要。																											

基本方針 サブテーマ 施策	取り組み	目標指標に対する達成状況																				
基本方針3、力強い農業生産基盤等の整備・保全（農業生産基盤に関する方針）																						
<p>(1)優良農地の確保</p> <p>施策14. 農地の保全・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ①農業振興地域整備計画の管理 ②農地流動化の促進 ③農地の維持・活用 ④耕作放棄地の解消 <p>施策15. 優良農地の整備促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ほ場整備の推進 ②農地の高度な活用 ③末端排水路のきめ細やかな整備 	未達成	<p>⑥市管理農業用排水機場の長寿命化対策工事の実施数 【ストックマネジメントの推進】</p> <table border="1" style="display: none;"> <caption>⑥市管理農業用排水機場の長寿命化対策工事の実施数</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実施数</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H25 (策定時)</td><td>0</td></tr> <tr><td>H27</td><td>0</td></tr> <tr><td>H28</td><td>3</td></tr> <tr><td>H29</td><td>4</td></tr> <tr><td>H30</td><td>6</td></tr> <tr><td>R1</td><td>6</td></tr> <tr><td>R2</td><td>7</td></tr> <tr><td>R3</td><td>9</td></tr> <tr><td>R4 (目標)</td><td>10</td></tr> </tbody> </table> <p>主な事業 ・ 県営基幹水利施設ストックマネジメント事業 ・ 農業水利施設保全合理化事業</p> <p>目標達成状況の分析 適時の施設診断や予防保全対策に取り組み、施設の長寿命化対策を図った。R4年度に予定していた1機場は、機能診断と機能保全計画の結果、R6年度に長寿命化対策を実施することとなったため、目標としては未達成となる。</p> <p>課題 大半の施設が耐用年数を超過し、施設の老朽化や頻発化・激甚化する自然災害の影響により、突発的な事故リスクの増加が懸念される。</p>	年度	実施数	H25 (策定時)	0	H27	0	H28	3	H29	4	H30	6	R1	6	R2	7	R3	9	R4 (目標)	10
年度	実施数																					
H25 (策定時)	0																					
H27	0																					
H28	3																					
H29	4																					
H30	6																					
R1	6																					
R2	7																					
R3	9																					
R4 (目標)	10																					
<p>(2)農業水利施設の整備・保全管理</p> <p>施策16. 施設老朽化に対する効率的な保全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ストックマネジメントの推進 <p>施策17. 低平地を支える農業農村整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ①農業農村整備事業の推進 	未達成	<p>⑦ほ場整備率 【ほ場整備の推進】</p> <table border="1" style="display: none;"> <caption>⑦ほ場整備率</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>整備率 (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H25 (策定時)</td><td>48.9%</td></tr> <tr><td>H27</td><td>50.3%</td></tr> <tr><td>H28</td><td>50.6%</td></tr> <tr><td>H29</td><td>50.8%</td></tr> <tr><td>H30</td><td>51.0%</td></tr> <tr><td>R1</td><td>51.5%</td></tr> <tr><td>R2</td><td>51.9%</td></tr> <tr><td>R3</td><td>52.3%</td></tr> <tr><td>R4 (目標)</td><td>60%</td></tr> </tbody> </table> <p>主な事業 ・ ほ場整備促進活動費補助金 ・ ほ場整備事業負担金・補助金</p> <p>目標達成状況の分析 H28年度から市独自で、地区農家がほ場整備へ取り組みやすくなるよう、ほ場整備促進活動費補助金（着手前の調査費等にかかる地元負担への補助金）を創設し、ほ場整備を推進したが、目標は未達成となった。</p> <p>課題 農業競争力強化と複合経営に向けた、農地の大区画化・汎用化、地域の要望に応じたきめ細やかな整備を計画的に進める必要がある。</p>	年度	整備率 (%)	H25 (策定時)	48.9%	H27	50.3%	H28	50.6%	H29	50.8%	H30	51.0%	R1	51.5%	R2	51.9%	R3	52.3%	R4 (目標)	60%
年度	整備率 (%)																					
H25 (策定時)	48.9%																					
H27	50.3%																					
H28	50.6%																					
H29	50.8%																					
H30	51.0%																					
R1	51.5%																					
R2	51.9%																					
R3	52.3%																					
R4 (目標)	60%																					

基本方針 サブテーマ 施策	取り組み	目標指標に対する達成状況																				
基本方針4、魅力ある田園環境の創出（農業と環境の共生に関する方針）																						
<p>(1)環境にやさしい農業の推進</p> <p>施策18. 環境保全型農業の推進</p> <p>①環境への負荷の少ない農業の推進</p> <p>施策19. 環境に配慮した整備の推進</p> <p>①景観・自然に配慮した整備</p> <p>施策20. 資源循環型社会の形成</p> <p>①資源の循環利用・バイオマスの利活用推進</p> <p>(2)多面的機能のさらなる発揮</p> <p>施策21. 防災機能の向上</p> <p>①農地・排水施設の防災機能の向上</p> <p>施策22. 魅力ある田園集落づくりの推進</p> <p>①魅力ある田園集落づくり</p> <p>②豊かな自然の保全と創出</p> <p>③文化の継承</p>	未達成	<p>⑧多面的機能支払の取り組み率 【多面的機能のさらなる発揮】</p>  <table border="1" data-bbox="1231 273 1929 661"> <tr><th>年度</th><td>H25 策定時</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4 目標</td></tr> <tr><th>率</th><td>62.5%</td><td>85.6%</td><td>86.1%</td><td>87.4%</td><td>87.7%</td><td>87.4%</td><td>87.2%</td><td>88.2%</td><td>95%</td></tr> </table> <p>主な事業 ・多面的機能支払交付金事業</p> <p>目標達成状況の分析 目標は未達成の見込み。地域の共同活動を引っ張るリーダーの不在や会計等事務の負担が大きいことを理由に、活動の継続を断念する組織が見られ、伸び率が鈍化傾向となった。</p> <p>課題 農村地域の過疎化、高齢化、混住化等の進行に伴う集落機能の低下が課題となっている。</p>	年度	H25 策定時	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4 目標	率	62.5%	85.6%	86.1%	87.4%	87.7%	87.4%	87.2%	88.2%	95%
		年度	H25 策定時	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4 目標											
		率	62.5%	85.6%	86.1%	87.4%	87.7%	87.4%	87.2%	88.2%	95%											
<p>⑨主食用水稲作付面積に占める化学合成農薬・化学合成肥料を5割以上削減した栽培面積の割合【環境保全型農業の推進】</p>  <table border="1" data-bbox="1231 714 1929 1102"> <tr><th>年度</th><td>H25 策定時</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4 目標</td></tr> <tr><th>割合</th><td>34.4%</td><td>35.6%</td><td>35.9%</td><td>35.4%</td><td>30.4%</td><td>26.4%</td><td>25.3%</td><td>24.7%</td><td>50%</td></tr> </table> <p>主な事業 ・環境保全型農業直接支払交付金事業 ・環境と人にやさしい農業支援事業</p> <p>目標達成状況の分析 平成30年度の米の需給調整の制度改正に伴い水稲における減農薬・減化学肥料栽培の面積は減少している。</p> <p>課題 資源循環型農業に向けた設備投資への支援は引き続き行っているものの、需給調整の制度改正や、減農薬・減化学肥料栽培への支援制度の改定により栽培面積の減少傾向となっている。</p>	年度	H25 策定時	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4 目標	割合	34.4%	35.6%	35.9%	35.4%	30.4%	26.4%	25.3%	24.7%	50%		
年度	H25 策定時	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4 目標													
割合	34.4%	35.6%	35.9%	35.4%	30.4%	26.4%	25.3%	24.7%	50%													
<p>⑩田んぼダムの面積 【防災機能の向上】</p>  <table border="1" data-bbox="1231 1155 1929 1551"> <tr><th>年度</th><td>H25 策定時</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4 目標</td></tr> <tr><th>面積 (ha)</th><td>5,000</td><td>5,051</td><td>5,215</td><td>5,555</td><td>5,979</td><td>5,992</td><td>6,047</td><td>6,120</td><td>6,500</td></tr> </table> <p>主な事業 ・田んぼダム利活用推進事業 ・多面的機能支払交付金事業</p> <p>目標達成状況の分析 H30年度末時点で、構想策定時の目標(6,000ha)をほぼ達成し、令和元年度の中間見直しで現目標(6,500ha)に上方修正したが、近年は取り組み面積の伸び率は微増で推移し、目標は未達成の見込み。</p> <p>課題 本市は低平地が多く、水害の被害を受けやすい地形にあるため、近年の自然災害に対応すべく、農家の協力による田んぼダムの取組面積の拡大が課題となっている。</p>	年度	H25 策定時	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4 目標	面積 (ha)	5,000	5,051	5,215	5,555	5,979	5,992	6,047	6,120	6,500		
年度	H25 策定時	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4 目標													
面積 (ha)	5,000	5,051	5,215	5,555	5,979	5,992	6,047	6,120	6,500													

基本方針 サブテーマ 施策	取り組み	目標指標に対する達成状況					
基本方針5、食と花の理解を深める農のある暮らしづくり（多様な体験と交流に関する方針）							
<p>施策23. 食育・花育の推進</p> <p>①食育の推進</p> <p>②花育の推進</p> <p>施策24. 農村・都市交流の推進</p> <p>①都市型グリーン・ツーリズムの推進</p> <p>②市民農園等の取り組み推進</p> <p>③農業サポーターシステムの推進</p> <p>④地域を支えるサポーターづくり</p> <p>施策25. 教育ファームの推進</p> <p>①「新潟発 わくわく教育ファーム」の推進</p>	未達成	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th colspan="2" style="text-align: left;">⑪農業サポーターの活動人数（延べ活動日数）</th> <th style="text-align: right;">【農村・都市交流の推進】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 60%; text-align: center;"> </td> <td style="width: 40%; vertical-align: top;"> <p>主な事業 ・ 農業サポーター推進事業</p> <p>目標達成状況の分析 H30年度に、サポーターが農家へ直接申込み形に制度を変更したことに加え、新型コロナウイルスの影響等もあり、農業サポーターの活動実績が目標値を下回る状態が続いている。平成25年度の計画策定時と令和3年度末を比べ、受入農家数は54軒から51軒と3軒減少し、農業サポーターは328人から415人と約1.2倍に増加している。</p> <p>課題 サポーターが自分で活動先を選ぶため、マッチングに課題があること、また、登録農家の活動実績報告の未提出も、活動実績数の低下の要因になっている。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	⑪農業サポーターの活動人数（延べ活動日数）		【農村・都市交流の推進】		<p>主な事業 ・ 農業サポーター推進事業</p> <p>目標達成状況の分析 H30年度に、サポーターが農家へ直接申込み形に制度を変更したことに加え、新型コロナウイルスの影響等もあり、農業サポーターの活動実績が目標値を下回る状態が続いている。平成25年度の計画策定時と令和3年度末を比べ、受入農家数は54軒から51軒と3軒減少し、農業サポーターは328人から415人と約1.2倍に増加している。</p> <p>課題 サポーターが自分で活動先を選ぶため、マッチングに課題があること、また、登録農家の活動実績報告の未提出も、活動実績数の低下の要因になっている。</p>
	⑪農業サポーターの活動人数（延べ活動日数）		【農村・都市交流の推進】				
		<p>主な事業 ・ 農業サポーター推進事業</p> <p>目標達成状況の分析 H30年度に、サポーターが農家へ直接申込み形に制度を変更したことに加え、新型コロナウイルスの影響等もあり、農業サポーターの活動実績が目標値を下回る状態が続いている。平成25年度の計画策定時と令和3年度末を比べ、受入農家数は54軒から51軒と3軒減少し、農業サポーターは328人から415人と約1.2倍に増加している。</p> <p>課題 サポーターが自分で活動先を選ぶため、マッチングに課題があること、また、登録農家の活動実績報告の未提出も、活動実績数の低下の要因になっている。</p>					
	達成	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th colspan="2" style="text-align: left;">⑫教育ファーム（農業体験学習）取り組み小学校割合</th> <th style="text-align: right;">【教育ファームの推進】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 60%; text-align: center;"> </td> <td style="width: 40%; vertical-align: top;"> <p>主な事業 ・ 「新潟発 わくわく教育ファーム」推進事業</p> <p>目標達成状況の分析 教育委員会と協働で作成した独自の農業体験学習プログラムである「アグリ・スタディ・プログラム」が学校のカリキュラムに定着し、市内全ての小学校で農業体験学習を実施できた。</p> <p>課題 全小学校の農業体験学習の実施は継続して達成されているので、次のステップとして、成果を具体化した指標を検討する必要がある。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	⑫教育ファーム（農業体験学習）取り組み小学校割合		【教育ファームの推進】		<p>主な事業 ・ 「新潟発 わくわく教育ファーム」推進事業</p> <p>目標達成状況の分析 教育委員会と協働で作成した独自の農業体験学習プログラムである「アグリ・スタディ・プログラム」が学校のカリキュラムに定着し、市内全ての小学校で農業体験学習を実施できた。</p> <p>課題 全小学校の農業体験学習の実施は継続して達成されているので、次のステップとして、成果を具体化した指標を検討する必要がある。</p>
⑫教育ファーム（農業体験学習）取り組み小学校割合		【教育ファームの推進】					
	<p>主な事業 ・ 「新潟発 わくわく教育ファーム」推進事業</p> <p>目標達成状況の分析 教育委員会と協働で作成した独自の農業体験学習プログラムである「アグリ・スタディ・プログラム」が学校のカリキュラムに定着し、市内全ての小学校で農業体験学習を実施できた。</p> <p>課題 全小学校の農業体験学習の実施は継続して達成されているので、次のステップとして、成果を具体化した指標を検討する必要がある。</p>						